

令和4年度
名寄市教育改善プロジェクト委員会

教育研究（研修）の充実に関する研究グループ

0 背景

多様化する教育課題

学力向上

体力向上

いじめ、不登校等への対応

特別支援教育の充実

I C T の活用

など多様化

これからの学校経営における課題

- ・学校を取り巻く内外の状況に応じて、多様な教職員集団の関係づくりを進め、目指す学校教育を具現化する
ミドルリーダーを育成すること

★学校管理職を含む新しい時代の教職員集団の在り方の基本的な考え方（文部科学省2021抜粋）

- ・学校自体を教師の学びのコミュニティと捉え、自律的な研修組織として機能させていくこと
- ・その推進役となる学校管理職やリーダーの果たす役割が大きいこと

★教師が学校組織で働く中で、自らが成長を実感し、学校教育活動を推進することが重要

学び続ける教職員集団

＜ボストン大学：アンディ・ハーグリーブス＞(2015)

- ・「学び合う専門職コミュニティ」の構築すること
- ・チームワーク、探究、継続的な学び
- ・一つもしくは複数の学校の教師たちの知識、技術、気質をまとめ、情報を知識に変換

1 第3次名寄市教育改善プロジェクト委員会

<推進テーマ>

児童生徒に「生きる力」を育み、夢と希望を拓く名寄市教育の創造
～全小・中学校が一体となった学校力向上の取組を通して～

<推進の重点>

- ① 学校力向上を図る小中連携の推進
- ② 直面する課題解決に向けた取組の推進

全小・中学校が一体となった学校力の向上

人材育成と学習指導に関する諸課題への対応 ～市教研・各種委員会との連携を通して～

2 教育研究（研修）の充実に関する研究グループの重点

<次代を担う人材の育成>

3 令和4年度における研究内容

(1) スクールリーダーとしての力量を高める研修の充実

- スクールリーダーとしての学校組織マネジメントに係る研修
講師：北海道教育大学教職大学院特任教授 北村善春氏
- 各小・中学校における教務主任等の連携の充実

(2) 次代を担う組織的・戦略的なスクールリーダーの育成

- 先進的な事例から学ぶ視察研修
視察先：旭川市立朝日小学校（高野拓実校長）
- 求められるスクールリーダーの姿及び日常的な人材育成

(3) 小中で連携した教育活動、市内で統一した取組の発信

- 学年・学級経営案の充実・活用、日常業務の進捗状況等の共有

3 令和4年度における研究内容

（1）スクールリーダーとしての力量を高める研修の充実

○ スクールリーダーとしての学校組織マネジメントに係る研修①②③

講師：北海道教育大学教職大学院特任教授 北村善春氏

内容：これからの学校づくりに向けたミドルリーダーの役割を考える

第2回スクールリーダー研修会	第4回スクールリーダー研修会	第6回スクールリーダー研修会
令和4年6月7日（1回目）	令和4年9月22日（2回目）	令和4年11月25日（3回目）
<ul style="list-style-type: none">○ 「研修Worknote」によるこれまでの取組の振り返りと自己分析の交流○ 理解しておきたいミドルリーダーの役割○ 新しい時代の教職員集団のあり方<ul style="list-style-type: none">・「令和の日本型学校教育」を担う教師の在り方○ リフレクションとは	<ul style="list-style-type: none">○ 自身の取組の振り返りと成果と課題の交流	<ul style="list-style-type: none">○ スクールリーダーとしての取組の振り返りと手応えの交流<ul style="list-style-type: none">ア 自身の業務推進に係る「前提・認識・見方」の変容、及びその要因についてイ 自身の前提・認識・見方が変化したきっかけや出来事について

**暗黙知から形式知への意識転換
背景や意図**

～言わなくても分かるから具体的に明確に示す～

～相手の思いや意図に至るまでの背景を理解する～

○ 各小・中学校における教務主任等の連携の充実

・新型コロナウイルス感染症に係る対応状況・学校行事等における工夫等の共有・キャリアノートの効果的な活用 等

スクールリーダーの資質能力の向上

学校組織の円滑な運営

3 令和4年度における研究内容

(2) 次代を担う組織的・戦略的なスクールリーダーの育成

○ 先進的な事例から学ぶ視察研修 視察先：旭川市立朝日小学校（高野拓実校長）

期日：令和4年10月20日 参加者：鎌田校長、梶田教頭、川浦教諭、畠山教諭、中野教諭、米津

【目的】

本市の教育改善プロジェクト委員会や学校力向上に関する総合実践事業等の取組の改善充実を図り、各学校の組織マネジメントを一層強化するため、学校運営の中核となる教職員を旭川市立朝日小学校へ派遣し、学校が一体となった先進的な取組等に係る研修に資する。

・メリハリを意識した業務推進

・前向きな教職員集団

「失敗したっていい。失敗したときは次を考えよう」

○ 求められるスクールリーダーの姿及び日常的な人材育成

・スクールリーダーとしての学校組織マネジメントを意識した日常的な取組の推進

対話的な学びに重点化した指導案

日(木)5校時 6年2組 21名 田所 諒介

1 単元全体の目標
・言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づくことができる。
・互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。

2 本時の評価規準
目的や条件に応じて、進行計画に沿って話し合い、よりよい解決に向かって考えを広げたり深めたりしている。【思考・判断・表現】

3 本時の展開 (5時間目/6時間)

課題：目的や条件に沿って、成果や改善点について話し合おう。

対話の手立て①
【課題の明確化】
課題を明確にし、対話の視点をはっきりさせる。

対話の手立て②
【個人の思考時間の確保】
個人の考えをもった上で対話がなされるように時間を確保する。

対話の手立て③
【協働的な学び】
Jamボードを活用し、思考の可視化と共有を促す。

まとめ：目的や条件に沿って話し合うと、(考えが広がったり深まったりする話し合いをすること)ができる。

振り返り：③自分なりに工夫したこと④友達のを参考になったこと(オクリンク)話し合いで意識したこと。思考の広がりが深まりの自覚。

4 板書計画

教育研究（研修）の充実に関する研究グループ

3 令和4年度における研究内容

(3) 小中が連携した教育活動、市内で統一した取組の発信

○ 学年・学級経営案の充実・活用、日常業務の進捗状況等の共有

- 各校における「学力」「体力」「生徒指導」において成果が見られた取組と学年経営案との関わりについての交流

<成果>

- 「統一した取組・継続した取組」
- 子ども同士、教職員同士が互いに「認め合う」「高め合う」
- 安心・安全な雰囲気づくり
- 生徒指導と学力向上は両輪で機能するもの

○ 教育研究（研修）の充実に関するグループ顔末等による名寄市内全教職員に向けた情報発信

令和4年度 教育研究（研修）の充実に関するグループ 第2回顔末

1 日時・場所・参加者
(1) 日 時：令和4年6月27日（月）15:00~16:15 (2) 場 所：名寄市立名寄小学校教育実習室及びリモート (3) 参加者 かづの：鎌田 真紀校長（菅原文中） 副主任：太田 健校長（菅原文中） 参 加 員：鈴木 豊校長（名寄南小） 研究主任：米津 祥伸教頭（名寄小） 研究員：梶田 千晶教頭（風連中央小） 研究員：櫻田和歌子（名寄南小） 川瀬 直也（名寄小） 佐々木智子（名寄南小） 香川 寛明（名寄南小） 高橋 慶介（中寄南小） 高橋日菜子（菅原文中） 田中恵美子（風連中央小） 藤田 麗介（名寄中） 島山 剛嗣（菅原文中） 中野 雄太（風連中） 専 員：小野 直久校長（名寄小） おたの：西尾 生一教頭（名寄南小） 小林 良光教頭（菅原文中）
2 活動内容
スクールリーダーとしての学校組織マネジメントに係る研修① 演 題：これからの学校づくりに向けたミドルリーダーの役割を再考する 講 師：北海道教育大学教職大学院特任教授 志 村 豊 尊 氏
【研修内容】 (1) 「ミドルリーダー」と求められる20の行動様式チェックリストの取組と交流 ○ 交流内容 「ミドルリーダー」に求められる20の行動様式チェックリストに取組んだことにより、チーム学校として、目標を共有していることが少ないように感じた。教職員とのコミュニケーションの充実を図り、円滑な業務連携が行えるよう調整等を図っていく必要がある。 ・マネージャー的な機能、メンター的な機能についてはよくできていたが、リーダー機能の部分には課題を感じた。取組内容に関わって、数値目標を設定することが目的化され、具体の取組につながっていない面もあり、計画的に取組を進めることができよう意識的
<交流内容> ・業務を進めていく中で、それぞれの担当職員が内容を理解していることを前提に仕事を進めてしまいがちだが、指導方針等の共有については、しっかりと確認する必要がある。

令和4年度 教育研究（研修）の充実に関するグループ 第3回顔末

1 日時・場所・参加者
(1) 日 時：令和4年9月31日（水）15:00~16:00 (2) 場 所：リモート (3) 参加者 かづの：鎌田 真紀校長（菅原文中） 副主任：太田 健校長（菅原文中） 参 加 員：鈴木 豊校長（名寄南小） 研究主任：米津 祥伸教頭（名寄小） 研究員：梶田 千晶教頭（風連中央小） 研究員：櫻田和歌子（名寄南小） 佐々木智子（名寄南小） 香川 寛明（名寄南小） 高橋 慶介（中寄南小） 高橋日菜子（菅原文中） 田中恵美子（風連中央小） 藤田 麗介（名寄中） 島山 剛嗣（菅原文中） 中野 雄太（風連中）
2 活動内容
【研修内容】 (1) 「ミドルリーダー」と求められる20の行動様式チェックリストの取組と交流 ○ 交流内容 「ミドルリーダー」に求められる20の行動様式チェックリストに取組んだことにより、チーム学校として、目標を共有していることが少ないように感じた。教職員とのコミュニケーションの充実を図り、円滑な業務連携が行えるよう調整等を図っていく必要がある。 ・マネージャー的な機能、メンター的な機能についてはよくできていたが、リーダー機能の部分には課題を感じた。取組内容に関わって、数値目標を設定することが目的化され、具体の取組につながっていない面もあり、計画的に取組を進めることができよう意識的

令和4年度 教育研究（研修）の充実に関するグループ 第4回顔末

1 日時・場所・参加者
(1) 日 時：令和4年9月22日（金）15:00~16:15 (2) 場 所：名寄市立名寄小学校教育実習室 (3) 参加者 かづの：鎌田 真紀校長（菅原文中） 副主任：太田 健校長（菅原文中） 参 加 員：鈴木 豊校長（名寄南小） 研究主任：米津 祥伸教頭（名寄小） 研究員：梶田 千晶教頭（風連中央小） 研究員：櫻田和歌子（名寄南小） 佐々木智子（名寄南小） 香川 寛明（名寄南小） 高橋 慶介（中寄南小） 高橋日菜子（菅原文中） 田中恵美子（風連中央小） 藤田 麗介（名寄中） 島山 剛嗣（菅原文中） 中野 雄太（風連中）
2 活動内容
スクールリーダーとしての学校組織マネジメントに係る研修② 演 題：これからの学校づくりに向けたミドルリーダーの役割を再考する 講 師：北海道教育大学教職大学院特任教授 志 村 豊 尊 氏
【研修内容】 (1) 「ミドルリーダー」と求められる20の行動様式チェックリストの取組と交流 ○ 交流内容 「ミドルリーダー」に求められる20の行動様式チェックリストに取組んだことにより、チーム学校として、目標を共有していることが少ないように感じた。教職員とのコミュニケーションの充実を図り、円滑な業務連携が行えるよう調整等を図っていく必要がある。 ・マネージャー的な機能、メンター的な機能についてはよくできていたが、リーダー機能の部分には課題を感じた。取組内容に関わって、数値目標を設定することが目的化され、具体の取組につながっていない面もあり、計画的に取組を進めることができよう意識的

令和4年度 教育研究（研修）の充実に関するグループ 先進的な事例から学ぶ視察研修 顔末

1 日時・場所・参加者
(1) 日 時：令和4年10月20日（水）13:00~16:00 (2) 場 所：旭川市立朝日小学校 (3) 参加者 かづの：鎌田 真紀校長（菅原文中） 副主任：太田 健校長（菅原文中） 参 加 員：鈴木 豊校長（名寄南小） 研究主任：米津 祥伸教頭（名寄小） 研究員：梶田 千晶教頭（風連中央小） 研究員：櫻田和歌子（名寄南小） 佐々木智子（名寄南小） 香川 寛明（名寄南小） 高橋 慶介（中寄南小） 高橋日菜子（菅原文中） 田中恵美子（風連中央小） 藤田 麗介（名寄中） 島山 剛嗣（菅原文中） 中野 雄太（風連中）
2 活動内容
(1) 目的 本会の教育改善プロジェクト委員会や学校力向上に関する総合実践事業等の取組の改善実感を認め、各学校の組織マネジメントを一元化するための、学校運営のモデルとなる教職員を旭川市立朝日小学校へ派遣し、学校が一体となった先進的な取組に係る視察を実施する。
(2) 視察研修の内容 ア 現場見学、授業参観 イ 朝日小学校の組織的先進的な取組 ウ 授業時間の確保に向けた組織マネジメントに関わって エ 授業改善を工夫した組織体制の構築について オ 生き生きと働ける学校づくりに関する組織マネジメントの取組について カ 人材育成に向けた組織の充実に関わって キ 日常業務に直結する学校内研修の促進について ク 協議
(3) 学校視察の状況

令和4年度 教育研究（研修）の充実に関するグループ 第5回顔末

1 日時・場所・参加者
(1) 日 時：令和4年10月20日（水）15:00~16:00 (2) 場 所：リモート (3) 参加者 かづの：鎌田 真紀校長（菅原文中） 副主任：太田 健校長（菅原文中） 参 加 員：鈴木 豊校長（名寄南小） 研究主任：米津 祥伸教頭（名寄小） 研究員：梶田 千晶教頭（風連中央小） 研究員：櫻田和歌子（名寄南小） 佐々木智子（名寄南小） 香川 寛明（名寄南小） 高橋 慶介（中寄南小） 高橋日菜子（菅原文中） 田中恵美子（風連中央小） 藤田 麗介（名寄中） 島山 剛嗣（菅原文中） 中野 雄太（風連中）
2 活動内容
【研修内容】 (1) 目的 本会の教育改善プロジェクト委員会や学校力向上に関する総合実践事業等の取組の改善実感を認め、各学校の組織マネジメントを一元化するための、学校運営のモデルとなる教職員を旭川市立朝日小学校へ派遣し、学校が一体となった先進的な取組に係る視察を実施する。
(2) 視察研修の内容 ア 現場見学、授業参観 イ 朝日小学校の組織的先進的な取組 ウ 授業時間の確保に向けた組織マネジメントに関わって エ 授業改善を工夫した組織体制の構築について オ 生き生きと働ける学校づくりに関する組織マネジメントの取組について カ 人材育成に向けた組織の充実に関わって キ 日常業務に直結する学校内研修の促進について ク 協議
(3) 学校視察の状況

学校力向上に関する総合実践事業における地域協議会 令和4年度 教育研究（研修）の充実に関するグループ 第6回顔末

1 日時・場所・参加者
(1) 日 時：令和4年11月25日（金）15:00~16:30 (2) 場 所：名寄市立名寄小学校 音楽室 (3) 参加者 かづの：鎌田 真紀校長（菅原文中） 副主任：太田 健校長（菅原文中） 参 加 員：鈴木 豊校長（名寄南小） 研究主任：米津 祥伸教頭（名寄小） 研究員：梶田 千晶教頭（風連中央小） 研究員：櫻田和歌子（名寄南小） 佐々木智子（名寄南小） 香川 寛明（名寄南小） 高橋 慶介（中寄南小） 高橋日菜子（菅原文中） 田中恵美子（風連中央小） 藤田 麗介（名寄中） 島山 剛嗣（菅原文中） 中野 雄太（風連中）
2 活動内容
【研修内容】 (1) 事前学習：第3回研修会開催Work-outの活用 ○ スクールリーダーとしての取組の振り返り（事前学習）と手紙（成果）の交流（当日研修） ア 自身の業務実践に係る「動機・認識・見方」の共有、及びその要因について イ 自身の動機・認識・見方が変化してきたきっかけや背景について (2) 事前学習に基づくグループ交流（当日） ○ グループ交流①：事前学習を踏まえたグループ交流 Aグループ（名小、中寄南、風連中央、管中、菅原文中） ・自分自身が率先して業務を進めることがよいと考えていたが、適切なサポートを行ってやら業務を任せられることになり、個々のスキルアップが大切であると気付いた。それにより

3 令和4年度の成果と課題

【成果】

- スクールリーダーとしての力量を高める研修において、北海道教育大学教職大学院特任教授北村善春氏のご講話等をいただいたことにより、各スクールリーダーの日常的な業務推進の在り方や組織マネジメントについての理解を深めることができた。
- 次世代を担う組織的・戦略的なスクールリーダーの育成において、北村善春氏の研修内容を踏まえたスクールリーダーの関わりや、先進的な実践を行う旭川市立朝日小学校視察研修を踏まえて学校運営の見直しを図ったことにより、各学校の課題に応じた業務改善を進めることができた。
- 小・中学校が連携した教育活動において、共通して取組を進めている学年・学級経営案の成果を交流したことにより、学校の重点目標に基づく共通理解の徹底を図った取組の重要性について再確認することができた。

【課題（次年度に向けて）】

- ▲ 各学校の困り感や学校課題の解決を図るため、北海道教育大学教職大学院北村善春特任教授との連携を継続した取組を進める必要がある。
- ▲ 先進的な学校運営を推進する学校の取組を多くの教職員が理解するために、当該する学校の教員等を講師として来市していただくなど、学校視察研修の在り方を検討する必要がある。
- ▲ 各小・中学校の共通理解が図られた取組を進めるために、「名寄市立小・中学校教務だより（仮）」等を作成し、重点的な取組についての理解促進を行う必要がある。